

令和7年3月19日

木更津市議会議長 鶴岡 大治 様

議会運営委員会 委員長 近藤 忍
議会改革特別委員会 委員長 草刈 慎祐

視察結果報告書

本委員会は、所管事項調査のため行政視察を実施したので、その概要を報告します。

記

1. 期 日

令和7年1月15日（水）～16日（木）

2. 視 察 地

- (1) 兵庫県加西市
- (2) 大阪府和泉市

3. 調査事項

- (1) 議会改革の取組について
- (2) 議会改革の取組について

4. 参 加 者

(1) 委 員

議会運営委員会

近藤 忍 竹内 伸江 座親 政彦

議会改革特別委員会

草刈 慎祐 渡辺 厚子 吾津松太郎 田中 紀子

(2) 正副議長

鶴岡 大治 石井 徳亮

(3) 随 行

議事係長 杉浦 拓己 主査 奥田 賢利

5. 概 要

別添のとおり

視 察 結 果 の 概 要

1 兵庫県加西市

- | | |
|--------------|-----------------------|
| ① 市 制 施 行 | 昭和42年4月1日 |
| ② 人 口 | 41,792人(令和6年3月31日現在) |
| ③ 面 積 | 150.22km ² |
| ④ 一般会計当初予算規模 | 259億円(令和6年度) |
| ⑤ 財 政 力 指 数 | 0.63(令和4年度) |

【市勢概要】

加西市は兵庫県南部、播州平野の中央に位置し、東経134°51'、北緯34°56'にあり、市域面積は150.22平方キロメートルで、東西12.4キロメートル、南北19.8キロメートルに広がり、小野市、加東市、姫路市、加古川市、西脇市、多可町などに隣接している。

市北部には中国山地の裾野を成す山地が広がり、普光寺川、万願寺川、下里川が低地を形成し加古川へ流れ込んでいる。市中心部には青野ヶ原台地と鶴野台地が広がり、ため池が多く点在する地域である。南部には中生代の火山活動で形成された低山地がある。

気候は瀬戸内式で冬に降水量が少なく温暖であり、植生は北部にスギやヒノキ、南部にアカマツ群落や雑木林が広がっている。

明治22年、市町村制施行により1町10村に再編され、その後の合併で昭和30年に北条町、泉町、加西町の3町が成立。さらに昭和42年、「加西郡は一つ」という理念のもと、3町が合併し加西市が誕生した。これにより兵庫県内で21番目の市制施行となり、現在の加西市が形成された。

【調査事項】

議会改革の取組について

(視察概要)

加西市では、議会改革度調査2023(早稲田大学マニフェスト研究所)の議会改革度調査(情報共有)の項目において全国第5位へと順位を上げている。議会報告会は平成22年から、今年度には主権者教育のためこども議会を開催、議会ハラスメント防止条例を制定しており、議会の政策立案機能を発揮するために、全議員による政策検討会や常任委員会で行政に対して政策提言を行うなど幅広い議会改革を進めている。

多様な取組事例の実施状況を伺い、本市にあった議会改革取組の方向性を図るもの。

(質疑応答)

◇政策検討会について

- Q 1 平成29年に市長に政策提言をしており有意義なものだと考えるが、その後は。
A 1 常任委員会において提言を行ったことはあるが、政策提言にきちんとなっているかの判断が難しいのが現状である。予算を含めた実行という点から議会の提言として機能しているか課題が多いとの認識である。

◇市民との意見交換会について

- Q 1 意見交換会を実施後に行っている反省会の議会内の協議はどのようなものか。
A 1 議員協議会で運営上の問題について反省会をやっており、ほかに知らせるという形ではないためあまり意見は出ていない。
- Q 2 市民から意見が出た場合にどのような対応をしているのか。
A 2 要望などは委員長などが一般質問を行うなどしているほか、団体に対しては報告書を送ったりしていた。
- Q 3 意見が分かれるものについて議員の中ですり合わせなどはしているか。
A 3 議会報告は、議会だよりをもとに全員で共有している。賛否が分かれたものについては会の流れを止めることになるので、個人の意見を言わないようにしている。
- Q 4 報告会において議会で意見が割れたものなどでこういった意見があったということは伝えているのか。
A 4 学校再編など大きな事件については丁寧な説明をしているが、5分ほどの報告なので詳しくは報告していない。
- Q 5 報告会では議員の意見を聞きたいとの意見もあるが、そうすることで市民の関心を高めることができるのではないか。
A 5 いろいろな議員がおり、特定の議員へ質問が集中してしまうなど課題となったことがあり、そのような形をとっていない。
- Q 6 アンケートによると議員から報告会の開催を知った方があまり多くないとの印象があるが、働きかけにより増やしていくという考えは。
A 6 支援者に来てもらうという形になるのも望ましくないし、十分な話し合いができる方にどう集まってもらうか広報については課題がある。
- Q 7 タウンミーティングやアンケートの集計事務はどうやっているのか。
A 7 発送・集計は一部議員が手伝っているが事務局で行っている。アンケートの数は執行部の件数を参考とし、ネットも活用している。タウンミーティングは執行部も積極的にやっており、議会で実施する際の集客には課題が多い。
- Q 8 募集時に上限人数などは設けているか。
A 8 50～60人の収容人数の会場で行っているがそれを上回る人数は集まっていない。
- Q 9 参加者は固定されていかないか。
A 9 意見を言いたい人が過去におり、結論の出ている議案の蒸し返しの場合となることが過去にはあったが、現在はそのような状況にはなっていない。

◇こども議会について

- Q 1 こども議会に先立って事前の研修を行っているようだが参加は全議員なのか。

- A 1 正副議長、常任委員会の正副委員長の8名で、児童2人に1人で行っている。
- Q 2 会の決定プロセスと組織運営について伺いたい。
- A 2 令和5年6月に広報公聴特別委員会を設置して実施してほしいと議長の所信表明からはじめた。かつては教育委員会が主体であったが議会が主体となるようにした。小学6年生の社会科で国政の仕組みを学ぶので議会体験を通じて課題解決の体験の場となるよう企画した。
- Q 3 反対はなかったのか。
- A 3 議員協議会で討議をするなど意見が食い違うことはあるが、多数決でまとめられている。元々の提案に対する反対はなく、進め方といった点で異見はあるが、概ね同じ方向を向いている。
- Q 4 校長会に説明に伺っているようだが、誰が説明をしたのか。
- A 4 こども議会への参加募集期間の出だしにおいて応募状況が芳しくなかったことから校長会にチラシを持って議長が説明に伺い、参加をお願いした。

◇広報について

- Q 1 議会広報の配布方法は。
- A 1 市の広報と一緒にしている。
- Q 2 区長などに聞くと市からの依頼が多く困っていると聞くが加西市ではどうか。
- A 2 同様である。執行部からは区への依頼は減らすよう通知が出ている。自治会数は130ほどで、ライフナビというネット配信を利用している地区やアパートは大家に依頼するほか、コンビニに置かせてもらうなどもしている。
- Q 3 議会だよりを高校生全員に配布しているとのことだが目的は。
- A 3 来年度から2校で実施する。政治に関心を持ってもらいたいという狙いで快く協力いただけている。
- Q 4 政務活動費の報告書を公開しているとのことだがどこで公開しているのか。
- A 4 市役所のほかにはホームページのみである。政務活動費は一人年額10万円と少ないため、視察の費用に充てているだけという状況である。
- Q 5 X(旧Twitter)やYouTubeといったSNSも発信しているようであるが、これに伴う事務局の事務作業はどの程度か。
- A 5 ほぼ定例のものを行っているので作業はそれほど多くないと感じている。動画配信も編集などはせずに録画したものをそのまま配信している。

◇議会ハラスメント防止条例について

- Q 1 ハラスメントの相談窓口が事務局にあることについてどう考えているか。
- A 1 お手盛りにならないかとの質問だと思うが、形式上やむを得ないと考えている。

◇その他

- Q 1 委員会中継を行っているが事前に質問の調整は行っているか。
- A 1 委員会で必要な資料要求については委員長と執行部とが事前に行っているが、質問の調整や事前の通告は行っていない。

- Q 2 予算決算常任委員会は全議員が委員となっているが、運営はどのようにしているのか。
- A 2 委員会の下に分科会を設けて詳細な審査はそこで実施している。分科会のメンバーは常任委員会のメンバーと同じにすることで実質的な審査は常任委員会でおこなっているのと同じ状況となり、採決は全体で行っている。
- Q 3 今後、議員定数を見直すとのことであるが、その前に見直したのはいつか。
- A 3 現在の定数15名には平成22年10月からで、その前を見直しは平成18年である。
- Q 4 ライブ配信に字幕表示を行っているとのことだが、どの程度費用は発生しているか。
- A 4 導入費が240万円ほどであり、ランニングコストとして月1万9千円かかっている。

(考察)

1. 政策検討会の設置について

政策検討会は、議長が座長となる組織であり、加西市議会では議会基本条例の検証と議会機能強化のため政策提言できる議会を目指し、平成28年7月に設置し、手話言語条例の制定や議会機能強化等に取り組んできたが、平成29年度以降の政策提言は常任委員会での提案となり、現在設置はされていない。

2. 議会報告会について

議会報告会である「市民との意見交換会」は、議会基本条例に基づき平成22年度から毎年2回ほど開催し続けているが、特定市民の発言が続くことなど行き詰まりを感じて平成27年度からは特定団体との建設的な意見交換としてきた経緯があるが、広く市民の声を聴く必要があるとして令和6年度に団体ではなく市民に参加を求める形へと変更している。このような状況は、本市でも想定されるため参考になった。

市民からの意見聴取については、市民が執行機関に直接意見を伝え、市長の回答が得られるタウンミーティングが加西市では頻繁に開催されていることもあり、議会報告会の魅力が総体的に低下している点が課題となっている。

そこで、市民に関心の高いテーマを設けてグループワーク方式での開催に切り替えている。令和6年5月18日の会では若い市民も含め35人の参加があったことや開催について好意的な意見がある。一方で市民のアンケートによると議員個人としての意見を述べないとしている形での開催に不満の意見もあり、加西市議会でも今後の課題となっている。

報告会の形式を変更している点については、課題に対し工夫をして進めている姿勢でありとてもすばらしいとの意見が委員からあり、本市では市長によるタウンミーティングをしていないものの、木更津市で実施する場合、市民がどのようなことを求めているのか議会として考えなくてはいけないと思った。

3. こども議会について

加西市議会では、市内4校の小学6年生を対象に令和6年7月30日にこども議会を開催しており、教育機関の負担をなるべく少なくするための取組が興味深かったとの意見があった。子どもの質問作成について教育機関のサポートは受けず、小学生の質問を議員が形にすることを手伝い、答弁も議員が行うなど運営をできる限り議会側が行っている。

開催にあたって事前説明及び募集の際のチラシ配布のみを教育機関へ依頼し、募集状況が悪かった際にも議会側で小学校へ訪問し働きかけを行っているなど関係機関の負担を考慮しており、こども議会の開催を行う際には関係部署の負担を考慮した木更津市会議に合ったやり方を検討、協議すべきと思った。

また、子どもたちの自発的な参加となるよう一学校への割当てではなく個人での参加申し込み方式で実施している。参加者には缶バッチがもらえ、これにより子どもたちが前向きに取り組んだと聞き、ほほえましく思ったとの意見もあった。

なお、丸岡議長は「主権者教育」という上から目線ではなく、「問題解決の体験の場」としたいと言われており、その視点も重要だと感じた。

4. その他の取組について

加西市議会の議会改革の取組では他にも、広報誌を市内高等学校で全員に配布することなどで政治への関心を高める方策を、ハラスメント防止条例の制定、議員定数（現在15人）の見直しを検討していることなど、少ない人数で幅広い議会改革を進めている議会の姿勢に学ぶことは多く、こうした小さなことの積み重ねが早稲田大学マニフェスト研究所の2023年度議会改革度調査（情報共有部門）で前年度77位から5位へと上昇しているのだと参考となった。

2 大阪府和泉市

- | | |
|--------------|------------------------|
| ① 市制施行 | 昭和31年9月1日 |
| ② 人口 | 183,214人（令和5年12月31日現在） |
| ③ 面積 | 84.98km ² |
| ④ 一般会計当初予算規模 | 1,371億円（令和6年度） |
| ⑤ 財政力指数 | 0.72（令和4年度） |

【市勢概要】

和泉市は、大阪府南部の泉州地域に位置し、東西6.9キロメートル、南北18.8キロメートルと細長い地形を持つ市である。市内には、全国的に有名な弥生時代の集落遺跡「池上曾根遺跡」をはじめとする貴重な文化財が多く、旧石器時代から人々が暮らしていたと考えられている。

奈良時代には「和泉の国」の国府が現在の府中町に置かれ、平安時代には熊野詣の参詣道である熊野街道が市内を通り、大いに賑わった。江戸時代には天領や伯太藩領として発展し、特産品の「和泉木綿」や農業で栄えた。近代に入り、町村の合併や産業の発展を経て、昭和31年に市制施行となった。その後、平成期には和泉中央駅や桃山学院大学の開設、大型商業施設の進出などで人口が増加し、都市としての発展を遂げている。

和泉市の地勢は南高北低で、南部に和泉山脈、中部・北部に丘陵や平地が広がり、槇尾川と松尾川が北部に向かって流れている。面積は84.98平方キロメートルで、南は和歌山県境、北は堺市、高石市、西は泉大津市、岸和田市、忠岡町、東は河内長野市に接している。

【調査事項】

議会改革の取組（議会報告会）について

（視察概要）

和泉市議会は早期に委員会の中継や音声表示モニターを設置する等開かれた議会に向けて議会改革の取組を積極的に行っており、議会改革度調査2023（早稲田大学マニフェスト研究所）では大幅に順位をあげている。

順位上昇となった取組事例の実施状況を伺ったところ、早稲田大学マニフェスト研究所からのアンケート項目で未達成の項目で取り組めるものを少しずつ改革を積み重ねた結果順位の上昇に繋がっていた。

（質疑応答）

◇議会改革について

Q1 特別委員会は予算と決算しかないようであるが、議会改革を牽引するのは議会運営委員会の主導によるものか。

A1 議長を座長とした改革活性化会議でタブレットの運用などについて協議をしている。

Q2 早稲田大学マニフェスト研究所の2023年度議会改革度調査で、一般市での順位が

- 前年の95位から一気に6位に上昇しているが、要因をどの様に評価しているか。
- A 2 令和5年度に大きな改革を行った結果ということではなく、例えば一室を授乳室にも使えるようにしたことなど小さな改善を積み上げた結果と考えている。
- Q 3 マニフェスト研究会を基準に改革を進めていったというが、業務委託や講演などに参加したりなどにより評価基準を把握しているのか。
- A 3 講演などには参加していない。毎年調査のある項目で達成していないもので工夫して進められるものを取組としている。
- Q 4 事務局が主導して進めているとの説明があったが、事務局の構成人数は。
- A 4 現在、9名である。なお、今年度は府議長会の幹事市となっているため、通常の職員数に1名増となっている。
- Q 5 ヒアリンググループを導入しているとのことだが、利用実績は。
- A 5 導入してから機器を貸し出しての利用者はいない。
- Q 6 議長を座長として改革活性化会議を行っているとのことであるが、どのような規定で行っているのか。
- A 6 議会運営委員会を準拠した内規に基づいている。タブレットの運用についてもここで決めている。議事録は非公表であるが、最終的な決定は議会運営委員会で行っている。

◇子ども議会について

- Q 1 教育委員会が主催して毎年子ども議会が開催され今年度は8月5日に小学生11人が参加している。これに対する議会の関与はどの程度行われているのか。
- A 1 正副議長が出席している。議場の場所を貸しており、機器の操作は事務局で実施している。
- Q 2 今年度は議場で開催後に委員会室で個別に話が行われたようだが、それも教育委員会の提案なのか。
- A 2 ご質問のとおりである。市長の意見を踏まえて協議したものである。
- Q 3 小中学校が毎年交代で行われているようだが、何か理由は有るのか。
- A 3 21の学校があり、議論を深めるために少人数で実施できるようにしている。中学生向けには子どもサミットという形の施策がある。
- Q 4 子ども議会の参加者が市の職員になっている例もあるとのことだが、参加したことが採用時に影響はあるのか。
- A 4 元々和泉市への愛が強い子どもであり参加してもらえた。子ども議会への参加が職員となるきっかけとまでは言えないが少しは影響したと思われる。
- Q 5 子ども議会の開催について議員はどの程度関与しているのか。
- A 5 子どもに議員役をしてもらうという形で、教育委員会が主体となって行っている。議長がオブザーバーとして参加している。

◇新議場での機能について

- Q 1 議場内モニターに資料や多言語翻訳文を表示しているが、議場移転に伴っての対応と

考えて良いか。

- A 1 質問のとおり。電子採決用のモニターとして設置した後に資料の掲載もできることがわかり実施している。
- Q 2 木更津市議会も現在新議場の設計を進めている所であるが、和泉市が議会運営のために新たに設けた機能で良かったもの、加えておくべきだったと思う機能などはあるか。
- A 2 電子採決は議長の確認が容易になった。UDトークは配信もでき、分かりやすい、会議録の作成にも利用できている。出退勤システムも職員のパソコンと連携できているので設けてよかった機能である。
- Q 3 議場のモニターを使って電子採決を行っているとのことだが、反対討論があったもののみなのはなぜか。
- A 3 明文化されたものではないが、反対意見がある場合には討論を行うこととなっており、賛否が分かれるもののみを電子採決により行っている。
- Q 4 機器の導入にあたり I C T 関連の補助金は利用されたか。
- A 4 市庁舎整備に関連したもの以外に補助は受けていない。導入が容易なものから進めていこうということで行っている。
- Q 5 UDトークは、アプリをインストールすればすぐに使えるものか。
- A 5 タブレットひとつあれば導入はできる。アプリは、1行政単位ひとつまでのアカウントであれば無料で利用でき、和泉市議会では無料版を利用している。(和泉市では会議システムと連携させてディスプレイに表示させている。)
- Q 6 賛否が分かれた案件について、誰が反対したのか分かるような記載をしていないのはなぜか。
- A 6 紙面の10ページに収められるよう記載内容を決めている。ホームページには記載されている。
- Q 7 UDトークにおいて誤訳が出た時の対応は。誤訳とならないよう発声等の研修はあるか。
- A 7 有償版であれば業者からのサポートがあるが、無償版の運用である。なまりがある場合には誤訳となることもあり、訂正や語句の登録でカバーしている。
- Q 8 UDトークの活用で会議録の作成にもいい影響があるというが、議事録作成の費用削減にはつながっているか。
- A 8 会議の記録作成は業者に委託しており、その部分の削減はない。簡易な打ち合わせや記事を作成するために一般質問後の議員にデータを渡すなどの利用をしている。
- Q 9 委員会中継の際にUDトークの表示は見られるか。
- A 9 Y o u T u b e の配信にUDトークの文字表示は掲載していないので、それぞれのアプリを起動することで見ることはできる。
- Q 1 0 UDトークの多言語対応というのはどのように使うものか。
- A 1 1 同時に多言語で表示するというものではなく、表示は1言語。機能として多言語の

表示ができる、切り替えることができるというもの。

◇委員会の中継について

- Q 1 早期に委員会中継を導入されているが、実施に至るまでの経過を教えてください。
- A 1 平成24年に検討を開始し、業務委託ではじめた。当初はユーストリームで配信していたが、現在はYouTubeで配信している。
- Q 2 委員会中継もされ、そのときのカメラの切り替えは誰が行うのか。
- A 2 事務局の職員が行っている。
- Q 3 委員会協議会も中継されている。会議録は委員会だけであるが、協議会も中継されており、市民にとってはとても身近になると考える。委員会や協議会の中継をするに至って、議会での審議ではどのようなことがあるか。中継ではなく、実際に委員会や協議会を傍聴する席はどこなのか、それは中継には映らないよう、配慮はされているのか。
- A 3 協議会の中継については協議した資料が無い。おそらく委員会から続けてということに配信したのだと思う。傍聴人には中継時に映り込む可能性があることを伝えている。
- Q 4 委員会中継をすることになったことによって事前に質疑を通告するなどの対応はあるか。
- A 4 当日は進行がスムーズに行えるように事前に調整を行っている。
- Q 5 中継を行ったことによって議員がアピールをする場になることはないか。
- A 5 一人当たりの概ねの時間が決められており、そのような状況にはなっていない。その場合には対策が必要となっていくと思う。
- Q 6 事前に質疑通告を行って調整をするとすると、他の委員の質疑を聞いて、関連した質疑はできるのか。
- A 6 それぞれの質疑に答弁書を作成して委員会を行っており、基本的には関連質疑はない。質疑が重なった場合には事前に調整で省略する、質問の観点を変えるなどの対応をとっている。

◇その他

- Q 1 大学との事業連携を検討していると伺うが、議会が大学からどのような示唆を求めているのか。
- A 1 事務局が主導的に主権者教育について検討を行っている。
- Q 2 UDトークを使用した字幕ライブを始めているようだが、誤変換の問題などにはどのように対処しているのか。また多言語翻訳は英・中・韓の3か国語か。また市民の反応は。
- A 2 ホームページに注意事項として記載している。誤変換については、単語登録により改善に努めている。多言語翻訳は、質問の3か国語を含め約30か国語の表示が可能である。意見がきたわけではないが、映像配信においても障がい者への対応ができたと考えている。

- Q 3 ホームページにキッズページがあるが、これを始めた経緯は。
- A 3 事務局からの意見をきっかけとして始めた。
- Q 4 会議録速報版の掲載がHPにあるが、速報版が掲載されるまでの時間はどのくらいか。10月1日の会議のPDFアップはいつだったのか。
- A 4 10日程度で委託業者から届くとすぐに掲載している。10月1日分については11日に掲載となる。
- Q 5 令和5年度政務活動費収支報告一覧表によると、広報費の次に多いのが事務所費、その次が広聴費であった。広聴費は具体的にどのような活動をされているのか。
- A 5 市民相談に係る交通費として支出している。
- Q 6 議会中継を見たが、賛成、反対などの一覧が視聴していてもよくわかる形で画面に出た。議員が質問に使う資料、執行部が答弁に使う補助資料や説明者が同時に画面で表示されていたと思うが、そのほかにどのようなことができるのか。また、議場の傍聴者への対応はどのようにしているのか。
- A 6 執行部の資料は掲載しておらず、議員の資料を掲載している。資料表示のほかには、質問の残時間を表示している。
- Q 7 「予約いらず！議場を見学できます～議会を親しみやすい場所に～」として議場見学を行っているが、来場者にはどんな世代の方が来たのか。
- A 7 小学生から高齢者の方のほか、親子連れで幅広い世代の方に来ていただいている。
- Q 8 SNSの利用に際してリツイートにより炎上することがあると思うが、機能を制限するなどの対応はとっているか。
- A 8 市議会から発信をするもので、ほかの投稿をリツイートはしていない。議会の投稿にリツイートできないような制限はかけていない。
- Q 9 投稿に対してコメントなどを入れることができると思うが、確認などどのような対応をとっているのか。
- A 9 返信があれば表示されるので都度確認している。現在、問題となるようなコメントはない。
- Q 10 市議会のSNSの登録状況は。
- A 10 X（旧Twitter）の登録者数は、350ほどである。

（考察）

1. 議会改革の取組について

和泉市議会の議会改革の取組は、平成18年に「議会改革検討会議」を設置し、開かれた議会への対応、議会運営全般、議員活動などの諸問題について、他市議会の状況等を調査しながら改革を進めてきたが、令和2年に終了し新たな検討の場として、議長が座長を務める「議会改革活性化会議」を設置し、議会事務局もお金をかけなくてもどんどんできることをしようという姿勢の下、数多くの項目に取り組んでいる状況にある。

また、和泉市議会では百個の改革を目指すという位置づけ、細かいことも含め次々と改革

を行い、令和5年度に新庁舎が開設されたことに合わせハード面とソフト面の両方で取組を進めている。

議会改革度調査で、一般市での順位が前年の95位から6位に上昇された要因は、大きな改革ではなく前年度にできなかった小さな改革（例えば、授乳室の設置等）をコツコツとやってきたことが成果につながったと伺った。改めて小さな視点からの改善が重要であることを認識できた。

2. UDトークについて

UDトークは議会で導入したアプリであり、議場で文字データを流すとともに、議員の求めに応じて発言のテキストデータを直ぐに渡すことが出来て好評とのことであった。視察の際、発言が文章として大型モニターに表示され、懸念していた誤変換は少なかった。

UDトークは、聴覚に課題がある方にも会議の傍聴環境の整備に役立つこと、30を超える多言語翻訳対応機能もあること、1自治体1アカウントまで有償版でなく無償版が利用できることから、本市も導入について検討すべきと考え、2月6日の議会改革特別委員会の打ち合わせより試行を始めた。

3. 委員会等の映像配信について

委員会および委員会協議会はYouTubeにより中継を行っており、作成に要する作業はそれほど多くは無いとのことであった。運用としては、会議で休憩をとる際には中継を取りやめ、テロップを流すようにしているとのことであった。

また、和泉市議会では委員会のほか、協議会もオンライン中継を早い時期から行っており、木更津市においても協議会を含めての検討を進めてほしいとの意見があった。現在、木更津市議会では、委員会の映像配信を新庁舎建て替えに合わせて検討を進めており、まずは委員会の映像配信についての参考としたい。

4. 子ども議会について

子ども議会は開催されているものの議場を貸し出しているという対応で、主体は教育委員会が行い、答弁は市長や執行部が行っているとのことであった。

教育委員会主導で行っているものではあったが、議会が行う意義について検討の参考としたい。

5. その他の取組について

和泉市議会では、新議場の整備により電子採決を取り入れている。運用として電子採決を全ての議案に対して行っているのではなく、反対討論が行われた事案に対してのみ電子採決を行い、それ以外の案件は賛成されたものとみなす簡易採決を取り入れているというものであった。慣例の問題ではあるが、全部の議案で電子採決を行ったほうがスムーズな進行となって良いのではとの意見もあり、実施の際には検討が必要であると感じた。

主権者教育については、子ども議会のほか、夏休み期間限定で議場見学を実施している。職員が議会の説明をしており、親子の社会見学として好評であるようで主権者教育

に繋がっているとの意見があった。

また、ホームページにキッズページを掲載しており、議会事務局が中心ではあるもののそのような改革も多く、参考になった。

議場整備によりヒアリンググループを設置してあるものの利用者はまだ無いとのことであった。本市では導入を見送る方向であるが、上記UDトークを利用すれば文字情報を流すことができ、聴覚に課題がある方も傍聴が可能になると思われ、このような取組は本市の新議場整備の参考となった。

和泉市議会は、令和5年1月に庁舎建て替えを行っており、同時に更新した設備があるものの、設備投資により改革が進んだというのではなく、ひとつひとつの議会改革を大小関係なく進めてきたことが主な要因として早稲田大学マニフェスト研究所に評価されたと思い、本市においても小さな課題解決を積み上げる形で議会改革を進めていくことが必要であると考察しました。

以上、視察結果について概略報告する。